

(5) 東海



東海地域では、景気回復に一服感がみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は緩やかな増加傾向にある。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

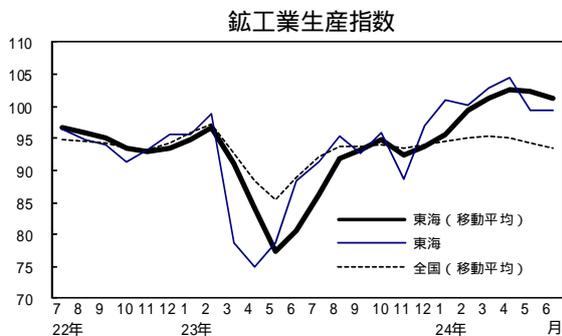
前回調査からの主要変更点

	前回(平成24年5月)	今回(平成24年8月)	
景況判断	緩やかに回復	回復に一服感	
鉱工業生産	増加	おおむね横ばい	
個人消費	緩やかに増加	緩やかな増加傾向	
住宅建設	減少	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

輸送機械は、自動車が低燃費車を中心に国内・海外向けで堅調だったこと等から増加した。一般機械は、主力の金属工作機械が、国内向けは底堅いものの、円高等の要因から海外向けを中心に弱い動きがみられたこと等から減少した。電子部品・デバイスは、スマートフォン向けの生産は堅調だった一方、市況の影響等もあって全体では減少した。プラスチック製品は、自動車生産が高水準で推移したこと等を受けて、自動車向け製品が増加した。化学は、主力の医薬品で後発医薬品(ジェネリック)の生産増加が寄与して増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
輸送機械	37.5	12.6	2.6	5.3	33.2
一般機械	12.7	0.6	0.1	0.9	1.0
電子部品・デバイス	6.8	10.1	3.9	6.1	8.5
プラスチック製品	5.4	8.0	4.8	3.2	0.3
化学	5.0	5.8	1.9	1.1	2.6
鉱工業	100.0	8.1	0.3	0.6	3.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

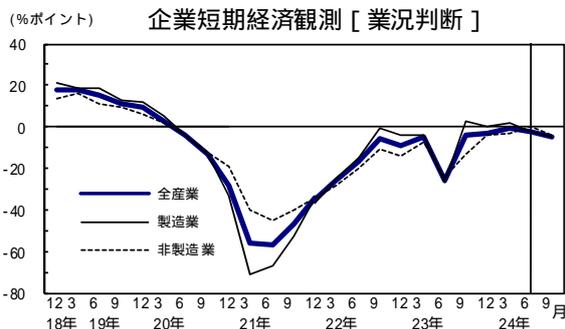
2. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。

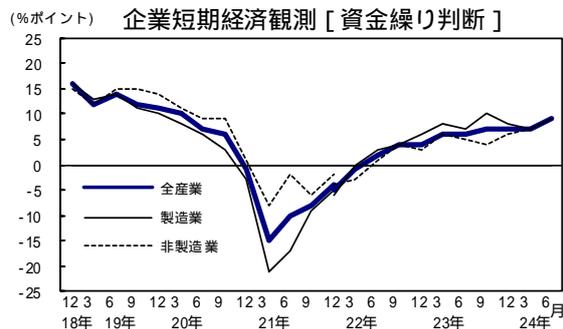
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

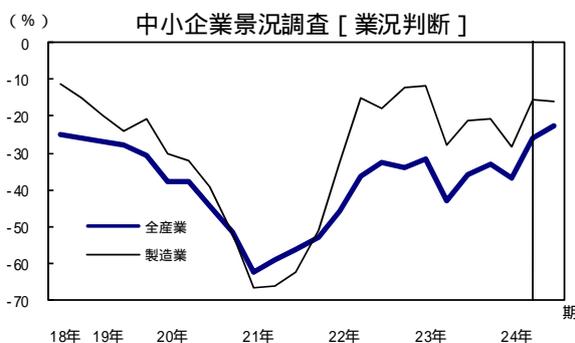
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

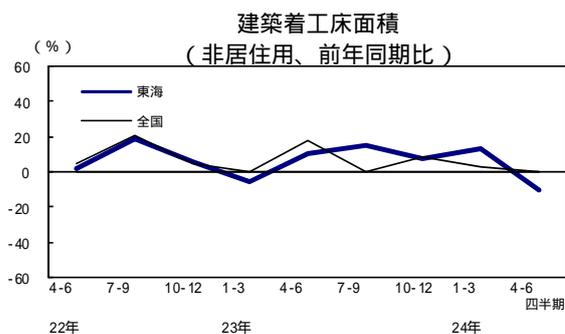
「欧州向けの工作機械関連は概ね減速傾向にあるものの、電気・電子関連の受注量は若干増加傾向にある(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 24年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	2.2 (7.5)	18.9 (5.1)
製造業	4.6 (9.8)	23.3 (0.2)
非製造業	0.2 (5.5)	15.2 (9.4)

(備考) 1.()は前回(3月)調査結果。
2. 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかな増加傾向にある。

大型小売店販売額

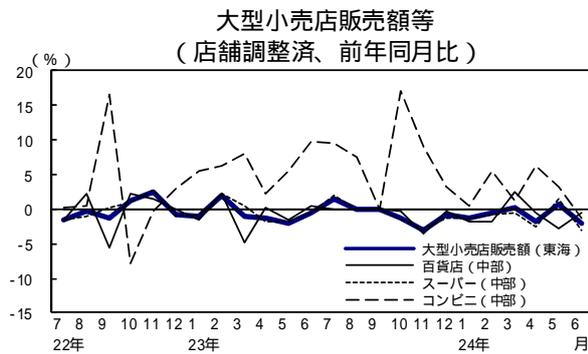
大型小売店販売額は、前年同期比で1.0%減、前期比で1.8%減となった。

百貨店は、4月は、気温低下で春物衣料が振るわなかったこと等から前年を下回った。5月は、気温低下で夏物衣料が振るわなかったこと等から前年を下回った。6月は、気温低下による夏物衣料の不振や台風上陸の影響で来客数が減少したこと等から前年を下回った。

スーパーは、昨年の東日本大震災の影響による品不足の影響もあって前年を上回る月があったものの、気温低下等から機能性衣料の動きが低調だったことや台風上陸の影響等から全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

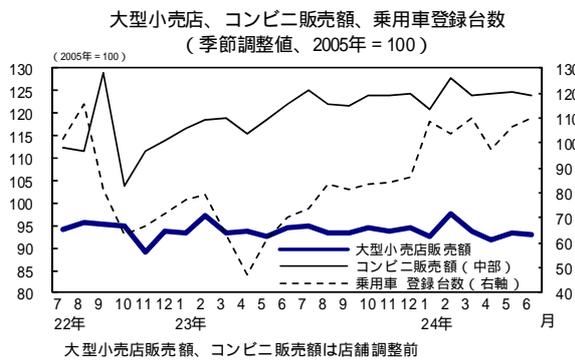
「今月に入り、エアコンが前年同月比140%を超える水準で推移しており、全体を押し上げている。しかし、相変わらず映像商品の台数の落ち込みが激しく、お盆過ぎの状況はあまり良くないと推測される(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



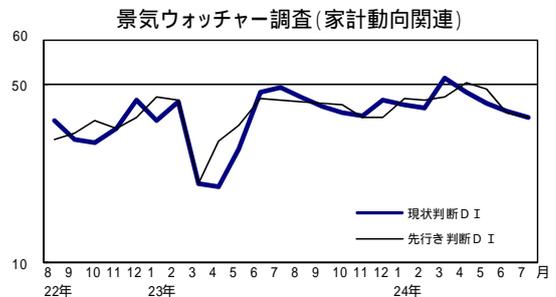
	23年7-9月	10-12月	24年1-3月	4-6月
大型小売店(*1)	0.9	1.6	0.5	1.0
百貨店(*1)	0.7	1.3	0.3	1.3
スーパー(*1)	1.2	1.9	0.9	1.4
大型小売店(*2)	1.5	0.9	0.2	0.8
(季節調整値)(*3)	(0.3)	(0.4)	(0.2)	(1.8)
乗用車(*4)	18.2	26.1	48.5	73.2
(季節調整値)(*4)	(33.5)	(6.7)	(27.0)	(2.8)

- (備考) 1. 店舗調整済、前年同月比(%)、百貨店、スーパーは中部
2. 店舗調整前、前年同月比(%)
3. 店舗調整前、前期比(%)
4. 乗用車は新規登録・届出台数

(上段：前年同月比、下段：前期比、%)



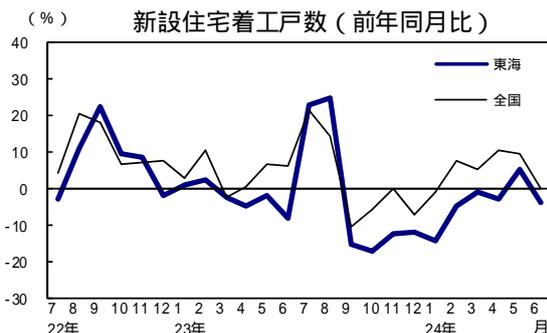
大型小売店販売額、コンビニ販売額は店舗調整前



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

貸家が前年を上回ったものの、持家、分譲が前年を下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

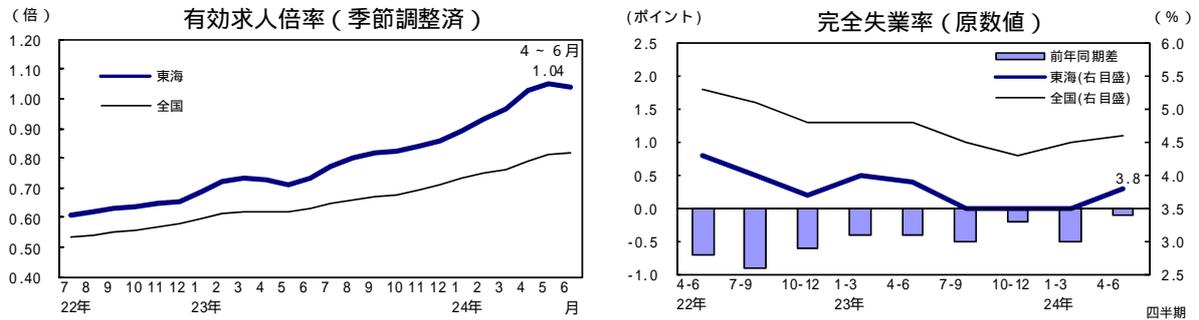


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

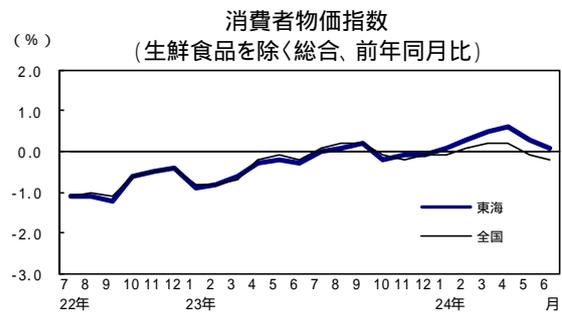
「自動車部品等を製造している事業所からの新規求人数は、減少している。取引先からの生産受注はあるものの、円高やエコカー補助金等の終了を見据えて残業等で対応しており、新規求人には消極的な事業所も出始めている。その一方で、介護・福祉関係では、引き続き正社員の求人が増加しているが、応募者が少ないため雇用形態等を変更した募集が多くなってきている (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年7-9月	10-12月	24年1-3月	4-6月	24年7月
倒産件数	310	343	361	383	121
(前年比)	7.2	1.5	14.9	6.6	9.0
負債総額	585	1,006	679	805	168
(前年比)	40.1	79.7	15.9	28.9	46.8



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・エコカー補助金の終了を間近に控え、希望する車種が補助金申請に間に合わないため、購買意欲は低下している (乗用車販売店)

<先行き>

- ・雇用調整助成金の計画件数が、6月ごろから若干増加傾向にある。このような場合は、企業の求人意欲が薄れることが多いので、やや下降する (職業安定所)

